

鬼火 (1956)

メディア 映画

ジャンル

製作国 日本

色彩 B&W

時間 46分

初公開日 1956/07/05

公開情報 東宝

【解説】

吉屋信子の同名小説を、菊島隆三が脚色し千葉泰樹が監督。ガス集金人の歪んだ欲望が生み出す恐怖と悲劇を描く。音楽は伊福部昭が担当。加東大介が小心者の主人公を好演した。

ガスの集金人である忠七は優秀だが女性にもてず、いつも通り過ぎる女性をじろじろと見ていた。忠七は同僚から集金が難しいと言われた焼け跡の一軒家を訪れる。出てきたのは若妻のひろ子で、寝たきりの夫に薬を飲むことができなくなるので、ガスを止めないでほしいと懇願された。よれよれの着物に身を包んだひろ子に欲情した忠七は、ガスを止めない代わりに体を差し出せと要求。風呂屋で身支度を調えた忠七が帰ってくると、部屋にはすでにひろ子が来ていた。

【クレジット】

監督 千葉泰樹

製作 佐藤一郎

原作 吉屋信子

脚本 菊島隆三 Kikushima Ryuzou

撮影 山田一夫

美術 中古智

編集 大井英史

音楽 伊福部昭

| | |
|---------|----------|
| 出演 加東大介 | 忠七 |
| 津島恵子 | ひろ子 |
| 宮口精二 | 夫 修一 |
| 中村伸郎 | 水原 |
| 中田康子 | その女中 |
| 清川玉枝 | 松田しげ |
| 中北千枝子 | 中流家庭の奥さん |
| 堺左千夫 | 集金人 吉川 |
| 笈川武夫 | 吉太郎 |
| 三條利喜江 | 水原の妻 |
| 佐田豊 | キャンデー屋 |
| 如月寛多 | すし屋の親爺 |
| 広瀬正一 | 押売りの男 |